

1 背景

愛知県内の家畜保健衛生所において育休等により定員割れの状況が続き、獣医師が不足する中で業務遂行していくためには、職員のレベルアップと業務効率化が急務となっている。

業務の一環である防疫対応では、令和4年に発生した鳥インフルエンザ防疫措置においてサポート不足などによる新任者の精神的負担は大きく、防疫員によっては業務に戸惑う場面も見受けられた。そこで、昨年度から今年度にかけて、技術向上と知識習得を目的とした人材育成の強化に取り組んだ。また、時間短縮と省力化を目的として、企画グループの担当業務である初動防疫資材の運搬と管理の効率化を図った取り組みを紹介する。

2 実施内容

(1) 人材育成の強化

職員の知識習得・技術向上のための研修として、4つの研修を再開・新設し、担当者の情報共有を目的とした研修を1つ開催した。

- ①防疫措置の根拠となる法律や予算についての概要と業務の実情に関する家畜衛生行政研修
- ②うずらの採血の手技習得 (図1)、飼養衛生管理や疾病に関する研修
- ③食鳥処理場へ適切な指導を実施するための現場見学研修
- ④動員者への的確な指示を行うために、廃鶏を用いて殺処分を体験する農場内作業研修 (図2)
- ⑤各地域部会における各班の担当者同士の情報共有の研修



(図1)



(図2)

(2) 防疫資材の運搬と管理の効率化

運搬については、パレットに積載している資材を備蓄場所から搬出する時、並びに荷積みのための組み直し作業時に、時間と人手が必要だったため、資材の積載をパレットからかご台車へ変更した。



(図3)

管理については、備蓄数量等のファイルが備蓄場所ごと等に複数存在していたため、1つのファイルに統合し、さらに動員者数から算出した必

要数と備蓄数量が瞬時に照合できるよう改善を図った。

3 成果

人材育成に関しては、2（1）①～④の研修について、アンケート結果から参加者の約9割が満足と回答し、理解が進んだ、現場を具体的に想像することができたなどの感想があった。特に2（1）②④の体験型の研修は高評価で、充実した講義内容と手技の確認ができて大変有意義だった、動員者への確かな指示が出しやすくなった、未経験のガスボンベの取り扱いも勉強になったなど、防疫作業への不安が軽減されるような回答を得られた。今後も継続開催を希望する声が多かった。体験することで防疫対応への不安が軽減され、具体的な指示内容等が把握でき、防疫措置が円滑に実施できることが期待される。2（1）⑤の研修では、課題の共有や対応策について意見交換を行った結果、他の地域での状況が把握でき、発生経験者の知識やノウハウを伝承し、今後の発生時やシミュレーション作成に役立つことが期待された。研修内容は、防疫措置の手引き及びマニュアルに反映し、今後の防疫作業に生かせるよう記録に残した。

防疫資材の運搬については、方法を改善したことで、荷積みに必要な時間が約9分の1短縮され、労力も大幅に削減された。使用場所での運搬の負担も軽減されると期待される。管理方法についても、備蓄している防疫資材の備蓄数量、搬出後の残数量等が一目瞭然となり、算出に要する時間が削減され、正確な把握が可能となった。

4 今後の展望

防疫対応の業務に関する人材育成については、特定家畜伝染病の発生に備えて、今後も継続的に研修を開催するとともに、対応時の経験を今後を生かして円滑な防疫措置を講じていきたい。

さらに本県では、過去に新規採用者のない期間があるため、今後中堅以上の職員が不足し、指導が十分にできなくなる懸念があることから、他の業務においても、研修内容をより充実していく必要がある。また、防疫業務以外の業務についても、随時見直し、効率化を進め、円滑な業務遂行を図っていきたい。